

持田製薬「25-27中期経営計画」の分析と評価：成長戦略加速期の挑戦

持田製薬株式会社は2025年5月12日、2025年度から2027年度までの3年間を対象とする「25-27中期経営計画」を公表しました。本計画は「成長戦略加速の3年間」と位置づけられ、前中期計画「22-24中計」の「土台作りの3年間」を経て、持続的な企業価値向上を目指す同社の次なるステップを示すものです。本報告では、この新中期経営計画の内容と評価を多角的な視点から分析します。

中期経営計画の概要と位置づけ

持田製薬グループの25-27中期経営計画は、同社が掲げる「2031年のありたい姿」を実現するための重要なマイルストーンとして策定されました。「2031年のありたい姿」では、医薬品関連事業、バイオマテリアル事業、ヘルスケア事業の3事業を柱とし、売上高1,400億円、営業利益率15%の達成を目指しています^[1]。

この計画では、三つの重点テーマが設定されています：

1. コア事業の収益力強化
2. 成長事業の継続投資
3. 成長を支える経営基盤強化

数値目標としては、2027年度に売上高1,200億円、営業利益120億円、「EBITDA + 研究開発費」265億円を掲げています^{[2] [3]}。

前中計「22-24中計」の成果と課題

「22-24中計」は「土台作りの3年間」と位置づけられ、イノベーション創出と生産性向上をテーマとしていました。医薬事業では新たな医薬品の発売やコスト構造の改善を進めましたが、利益水準は22-24中計前より低下し、収益最大化は未達となりました。一方、ヘルスケア事業や成長投資は順調に推移したと評価されています^{[2] [3]}。

成長性の観点からの分析

主要新薬による収益基盤強化

25-27中計では、主要新薬5品目（ユリス、オンポー、コレチメント、グーフィス、トレプロスト）の製品価値最大化が中核戦略として掲げられています。特に、これら5品目の売上高を2024年度の約2倍となる480億円まで拡大する目標が設定されており、野心的な成長計画と言えます^{[4] [5]}。

さらに、フラッグシップ医薬品である高純度EPA製剤とジェノゲスト製剤の価値拡大にも注力します。特に高純度EPA製剤については、2025年度中にオーソライズド・ジェネリック（AG）の国内発売を検討しており、「製造体制を強化し、中計期間中にEPA製剤数量シェアの国内ナンバーワンを目指す」という明確な方針が示されています^[4]。

成長事業への継続投資

中期的な成長を支える事業として、バイオマテリアル事業、核酸医薬、細胞医薬の3つに重点的な投資を行う計画です。特に核酸医薬では、「医療的価値の高いsiRNA医薬を連続的に創製する能力を有する『siRNA医薬のリーディングカンパニー』を目指す」という野心的な目標を掲げています^[2]^[3]。

5月7日に発表されたカイオム・バイオサイエンスとの抗体・抗原等の組み換えタンパク質の調製業務に関する委受託基本契約締結は、この方針に沿った具体的な動きと見ることができます^[4]。

数値目標の達成可能性

直近の業績を見ると、2025年3月期の連結決算では、売上高1,051億5,900万円（前期比2.2%増）、営業利益81億2,600万円（同40.1%増）と好調でした^[6]^[7]^[8]。しかし、2026年3月期の業績予想では、営業利益が70億円（前期比13.9%減）と減益を見込んでおり、中期計画の目標達成に向けては課題を抱えています^[6]^[8]。

リスクの観点からの分析

医療費抑制政策の影響

持田製薬を取り巻く環境は、円安を背景とした物価上昇、毎年の薬価改定や後発品の使用促進といった医療費抑制策の推進等により、極めて厳しい状況にあります^[2]^[3]。特に2024年10月に導入された長期収載品の選定療養の影響を受けており、従来の収益モデルの変革を迫られています^[6]。

利益の変動要因

2025年3月期は収益が大幅に改善しましたが、これは「医薬品関連事業の売上高増加に伴う売上総利益の増加と、研究開発費の減少を主な要因として販管費が減少したこと」による一時的な要因も含まれています^[6]。2026年3月期の減益予想は「ロイヤルティー収入の減少や売上原価の上昇」を見据えたものであり^[8]、持続的な収益構造の確立が課題となっています。

海外展開の観点からの分析

グローバル展開戦略

25-27中計では「海外事業室を中心とした組織横断的な連携の強化と、エパデール、ジエノゲスト製剤およびバイオマテリアル事業を中心とした海外展開の進展」を図る方針が示されています^[2]^[3]。過去の中期計画でも「中国、タイおよび米国等での高純度EPA製剤の海外展開」が挙げられており^[9]、継続的に取り組みを進めていることが伺えます。

しかし、検索結果からは海外展開の具体的な成果や進捗状況に関する詳細な情報は限られており、グローバル市場における競争力や現地戦略の詳細は不明確です。

人材戦略の観点からの分析

人財・インフラの効率的活用

25-27中計では「組織風土変革、人財マネジメント体制強化、多様な人財の活躍促進」を図ることが明記されていますが^[2]^[3]、具体的な施策については詳細が開示されていません。医薬品業界の競争激化と研究開発の高度化に対応するための人材戦略は、今後の成長を左右する重要な要素となるでしょう。

知財無形資産戦略の観点からの分析

研究開発投資の方向性

25-27中計期間中の研究開発費は3年間で360億円を計画しており^[2]^[3]、将来の成長に向けた積極的な投資姿勢が示されています。2025年3月期の研究開発費は116億7,600万円でした^[8]。

バイオマテリアル・核酸医薬への注力

特に注目すべきは、バイオマテリアル事業と核酸医薬への取り組みです。バイオマテリアル事業は「次世代の柱の一つ」と位置付けられ^[1]、関節軟骨損傷治療材dMD-001の開発などが進められています^[9]。

また、核酸医薬の分野では、持田製薬が低分子干渉RNA（siRNA）医薬品の開発に注力していることが報告されており^[4]、この分野での競争力強化が図られています。

投資家・アナリストからの評価

直接的な評価情報は限られていますが、いくつかの示唆的なデータが見られます。株価の推移^[10]を見ると、25-27中計発表後もほぼ横ばいの状態が続いており、市場は現時点では様子見姿勢と推測されます。

Yahoo!ファイナンス掲示板では「薬品株は1つの新薬の開発で株価が変わる。持田製薬は抗がん剤の思惑で16000円まで上がり続けた事があり」^[4]といったコメントがあり、投資家は特に新薬開発の進捗に注目していることが伺えます。

総合評価と今後の展望

持田製薬の25-27中期経営計画は、厳しい事業環境の中で「成長戦略加速」を掲げる野心的なものと評価できます。特に、主要新薬5品目の売上拡大やバイオマテリアル・核酸医薬などの成長分野への投資方針は明確です。

一方で、2026年3月期の減益予想や継続的な薬価改定の影響など、短期的には収益面での課題も抱えています。また、海外展開や人材戦略については、さらなる具体化が望まれる状況です。

長期的には「2031年のありたい姿」に向けた道筋の中で、この3年間でいかに効果的に活用できるかが同社の持続的成長のカギとなるでしょう。特にバイオマテリアル事業と核酸医薬の分野での進展が、将来の成長ドライバーとなる可能性を秘めています^[2]^[3]^[1]。

持田製薬の中期経営計画の成功は、新薬開発の進捗、収益構造の強化、そして成長分野への投資効果がいかに結実するかにかかっています。今後の四半期ごとの業績動向と研究開発の進捗状況が、投資判断の重要な指標となるでしょう。

結論

持田製薬の25-27中期経営計画は、厳しい外部環境の中で成長を加速させるための戦略的な方向性を示しています。主要新薬の価値最大化とバイオマテリアル・核酸医薬への投資が中核となっており、これらの取り組みの成否が同社の中長期的な企業価値を左右するでしょう。市場環境の変化や競合状況を注視しつつ、計画の進捗状況を継続的にモニタリングしていくことが重要です。

✻

1. <https://www.mochida.co.jp/upload/docs/ir2024.pdf>
2. <https://www.mochida.co.jp/company/strategy/plan/index.html>
3. <https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20250512/20250512540704.pdf>
4. <https://finance.yahoo.co.jp/cm/search?type=comment&query=持田製薬>
5. <https://nk.jiho.jp/article/198884>
6. <https://www.nikkei.com/article/DGXZRST0524315V20C25A4000000/>
7. https://kabuyoho.ifis.co.jp/index.php?action=tp1&sa=consNewsDetail&nid=4534_20250512_act_20250512_140011_1
8. https://moneyworld.jp/news/PHY7924_ainews
9. https://buffett-code-archives.s3.amazonaws.com/tdnet_archives/4534-20190401-64E44DA90E.pdf
10. <https://kabutan.jp/stock/kabuka?code=4534>